

# 社会にひらかれた 労働組合を！

## 労働運動と大学の 新しい連携の試み

一橋大学大学院 社会学研究科  
フェアレイベー研究教育センター

高須 裕彦さん



寄稿(上)

格差社会が社会問題化しており解決に向けた議論がされているが、依然として非正規労働者や未組織労働者をめぐる状況は厳しい。労働者の地位向上のための労働運動が求められているが、労働組合の組織率は18・5%と低迷を続けている。労働運動の再生のため労働者が自らの権利を自覚する労働教育は重要である。一橋大学のフェアレイベー研究センターの高須さんに労働教育について寄稿してもらった。

### ケント・ウォンさんとの出会い

私は2003年秋、アメリカのロサンゼルスから来日したケント・ウォンさんと出会った。彼の仕事場は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校の労働研究教育センター(以下、UCLAレイバーセンター)という。日本では聞き慣れないレイバーセンターとは何か彼は次のように答えた。

### レイバーセンターは運動をつなぐハブ

彼の言葉から強烈なメッセージを受けた私は、アメリカの大学のレイバーセンターの活動内容と役割について強い関心を抱くことになる。そして数年後、UCLAレイバーセンターをモデルに、

一橋大学に「フェアレイベー研究教育センター」を、明治大学に「労働教育メディア研究センター」を設立した。2つのセンターは財政基盤が脆弱で、いまだ十分な実績を上げられていないとは言えないが、労働運動の活動家たちと連携しながら、これまでに調査研究活動や労働教育、ワークショップ、メディア制作などを進めてきた。

以下、アメリカのレイバーセンターと日本での活動について紹介したい。

レイバーセンターの活動内容が、地域によって異なる。ここでは、UCLAレイバーセンターについて紹介したい。ロサンゼルスは、労働力構成に占める移民やマイノリティの比重が高く、大量の低賃金労働力が存在する地域である。同時に、労働運動が全米のなかで最も活性化している地域でもある。

ケント・ローチ監督の映画『レッド&ローズ』に出てくるビル清掃労働者のたたかいは、ロサンゼルス市の労働運動を象徴している。この先進地域で、UCLAレイバーセンターは労働運動や社会運動とのネットワークの「ハブ」としての役割を果たしている。

センターの主な活動は調査・研究と教育である。これまでの調査研究のテーマは、生活賃金や地域再開発、ウォールマート対策、介護労働、組織化などである。活動家たちと共同で調査研究を行い、戦略や政策提言を行っている。

労働教育については、講義型ではなく、参加型ワークショップ手法を活用して、さまざまな教育プログラムを開発している。労働組合向けには、オルガナイザーやリーダー教育、中南米系アジア系、アフリカ系、LGBT【注】のグループに分けて、労働者のニーズに対応した教育を行っている。

学生向けの労働教育では、労働運動や社会運動の現場の活動家たちが講師となり、労働者たちが抱える課題とたたかいの姿を伝えている。夏休みには、学生たちを労働組合やNGOに派遣するインターンシップも行っている。また、学生や若い労働者たちの教材として、先輩活動家たちの経験や個人史を本にまとめている。これらの活動とおして、労働組合やNGOで働く人材を育てているのだ。

このようにレイバーセンターは、地域の労働運動を強化し、人材を供給する重要な役割を担っていると言える。

日本の大学にもレイバーセンターを

### 地域労働運動を強化し人材育成

センターの主な活動は調査・研究と教育である。これまでの調査研究のテーマは、生活賃金や地域再開発、ウォールマート対策、介護労働、組織化などである。活動家たちと共同で調査研究を行い、戦略や政策提言を行っている。

### 日本の大学にもレイバーセンターを

私は、2004年にUCLAレイバーセンターに留学した経験から、日本の大学にもレイバーセンターをつくれな

ら自治労は2009年から明治大学で学生に対して、寄付講座を行っている。また、産別強化を目的に「中央労働学校」ユニオンリーダーセミナー」なども開催しているよ。

公務員には労働三権が制約されているんだ。

## ゴジラ音楽を通して戦後日本を俯瞰する

『ゴジラの音楽 伊福部昭 佐藤勝、宮内國郎、眞鍋理一郎の響きとその時代』 小林 淳 著

著者は、日本映画音楽評論界の第一人者。多くのサウンドトラック盤の緻密な解説や、ワイス出版からの著作で知られる。本書は「ゴジラ」第1作(1954)から「メカゴジラの逆襲」(1975)までの昭和期の15作品に絞って考察したもので、A5判468頁の大変な力作だ。一般に「ゴジラ」の音楽は伊福部昭によるものが突出して有名であり、彼が最も多く関わっているが、ほかの作曲家も関わっている。

15作の中では伊福部が8作、佐藤勝が4作、眞鍋理一郎が2作、宮内國郎が1作手がけている(眞鍋のみ存命で他は故人)。著者は、それぞれの作品について、時代背景・世相・映画界の動向を記述し、そこから映画の詳細なあらすじ紹介と音楽使用に関する緻密な考察を展開してゆく。たとえば71年7月公開「ゴジラ対ヘドラ」では、前年の三島事件や万博、公害問題などに言及した上で物語と音楽構造が語られるのである。著者は作曲家への直接取材なども行っており、その証言が随所で見られる。本書は、ゴジラ音楽を通して戦後日本(高度経済成長期)を俯瞰するという途方もない偉業を成し遂げた。(文芸幹事・四国地連・小西昌幸)

作品社 本体4600円+税

## 労働教育ってなに？

「働く人たちのひみつ」

自治労でも何か行っているの？

以前に比べると教育機会そのものが減ってきているんだ。以前は政府(旧労働省)にも「労働教育課」というものがあった。使用者や労働者に対する労働法制や労使関係に関する教育活動が、国を通じて推進されていたんだよ。最近では厚生労働省も就労前の学生に対して労働法の基礎知識の啓発活動をしたり、労働時間の見直しを通じた就業環境改善の為に相談ダイヤルを行っているよ。

現状では、日本の学校教育では労働教育が不足しているんだ。そのためにも「働く」ことについての教育と同時に「労働あるところ」に労働組合あり」を自然に受け入れてもらうため、小学生を対象にした本を出版し、全国の小学校や図書館に配布して教育に努めているよ。

これからは就労前や学校教育の過程で、権利に関して学ぶことが大切になるね。労働者には法律で定められた「労働三権(団結権・団体交渉権・争議権)」という権利があるよ。自分たちの権利を知らないと、その権利を守り、活用することもできないね。公務員には労働三権が制約されているんだ。

ハテナの壺で取り上げてほしいテーマをお寄せください。官製ハガキに本紙に対するご意見・ご感想をお書きの上、下記宛先までお送りください。〒102-8464 東京都千代田区六番町1 自治労会館 総合企画総務局(報道担当)「ハテナの壺」係

## ゴジラの音楽 伊福部昭 佐藤勝、宮内國郎、眞鍋理一郎の響きとその時代

小林 淳 著

作品社 本体4600円+税